

第10回 「摂食嚥下コーディネーター」資格認定試験 解答用紙 3-1

受験番号	
------	--

氏名	
----	--

問題 A	
1	2
2	4
3	2
4	3, 5
5	3
6	4
7	4
8	4
9	1
10	2
11	3
12	4
13	2
14	4
15	2

問題 A	
16	2
17	3
18	4
19	1
20	3
21	4
22	2
23	3

問題 B	
1	4
2	3
3	2
4	5
5	4
6	4
7	1
8	5
9	5
10	1
11	3
12	2

問題 C	
1	2
2	2
3	4
4	3
5	1
6	5
7	1
8	4
9	3
10	5
11	2
12	2

問題 D	
1	1
2	1
3	4
4	5
5	3
6	4
7	3
8	3
9	1
10	1

問題 E	
1	5
2	4
3	3
4	1
5	4
6	2
7	3
8	1
9	3
10	3
11	1
12	5
13	5

問題 A	問題 B	問題 C	問題 D	問題 E

計	
記述問題	
合計	

第10回 「摂食嚥下コーディネーター」資格認定試験 解答用紙 3-2

受験番号	
------	--

氏名	
----	--

A-1

1.

--

食塊の移動は「圧」によるが、そのメカニズムは、口唇の閉鎖に引き続き、以下の現象が起きる。

- ①口蓋帆咽頭閉鎖。その特徴としては、口蓋帆の前方移動と、それに続く非常に速い挙上と咽頭の側壁・後壁への堅固な接触による閉鎖空間における陽圧の生成。
 - ②舌骨喉頭複合体の挙上と前方移動によって形成される空間における陰圧の生成。
 - ③真声帯、仮声帯の閉鎖が圧の解除を防御。
 - ④喉頭口を覆う喉頭蓋が反転し、固有口腔並びに上咽頭で生成された陽圧によって食塊が咽頭へ押し出される。
 - ⑤上記の現象ののち食塊尾部に続く咽頭収縮が生じ
 - ⑥同時に上食道括約筋が開大し、食塊が食道上部へと押し出されていく。
- 一言でいうと、食塊は咽頭を通して機械的に、また圧-動力学的な力によって推進される。圧差は、食塊より上部の咽頭収縮筋の収縮と、食塊より下部における上食道括約筋の開大によって生み出される。呼吸では、通常は呼気が嚥下咽頭期の後に続く。
- これらの圧を形成するためには、筋力、筋量、軟部組織の厚さ、歯牙(顎位の安定)輪状咽頭筋弛緩、胸郭コンプライアンス等も関係している。

A-2

2.

--

正常な摂食・嚥下中における口腔構造の解剖と生理は固形食を食べている様子を検討することによって探ることができる。食物は口腔準備相の間に、咀嚼と舌運動の組み合わせによる作業を通して、細分化され、湿潤性を加えられる。その際、ある程度塊になった部分が選び取られて、舌と口蓋の間にできる空間に送られる。この作業の遂行には下記の諸点が必要である。

- ①食物が細分され湿潤されるときに、食塊を口腔内の適切な部位に保持するための適切な口唇と頬の柔軟性と緊張度。
- ②口腔粘膜にある感覚受容器、味蕾、歯性受容器と、筋および関節からの食塊特性に関する適切な感覚フィードバック。このフィードバックによって、適切な量と粘度の唾液分泌を促し、適切な咀嚼の力と軌道が提供される。
- ③食塊を効率よく咀嚼するために必要な、律動的でパターン化された咬筋をはじめとする咀嚼筋の活動化。
- ④上下歯列咬合面間の適切な位置に食塊を置くために、あるいは食塊の一部を咽頭へ送るための舌上の通路や歯槽頬溝に一時的に保持しておくために必要な内・外舌筋の共働的な収縮。
- ⑤摂食・嚥下の次の相へ移行することを見越した食塊の硬口蓋への圧接。

出典: Kim Corbin-Lewis et al「摂食・嚥下メカニズム UPDATE」医歯薬出版 2

計

--

